

2022年

6 / 22
水

関東放送シンポジウム

総務省
Ministry of Internal Affairs and Communications

ラジオによる 地域社会への貢献

参加費
無料

14時～16時

ZOOMウェビナー **LIVE**配信

※後日、ダイジェスト版を配信予定

主催：総務省関東総合通信局／一般社団法人日本コミュニティ放送協会 関東地区協議会

ラジオは、放送開始から長らく国民に身近なメディアとして存在し、大規模自然災害による長時間の停電発生時などにおいては、大切な情報発信ツールとして認識されております。また、地域社会を活性化する機能を有するメディアとしても重要な役割を果たしております。

本シンポジウムは、地域の産学官関係者及びフォーラム参加者とともに、「災害時の役割」や「地域活性化」などの観点から、改めて、デジタル時代における「ラジオの存在意義」を見つめ直す機会として開催いたします。

プログラム

14:00 主催者挨拶

【基調講演】 14:05

「学術的視座から再考するラジオへの期待」 大正大学 社会共生学部 北郷 裕美 教授

コミュニティ放送の黎明期に生業として携わった経験を基に、現在の研究者としての立場から語りたいと思います。今後への新たな課題を考えつつ、災害時の再評価も含めこのメディアの可能性を見据えたいと思います。



【事例報告】－ラジオによる地域社会への貢献事例－ 14:20～15:20

①「水戸市の防災情報伝達対策におけるラジオの有効性について」

茨城県水戸市 防災・危機管理課

小林 良導 課長

水戸市では、災害時における情報伝達対策を各種媒体を活用し強化しています。令和元年東日本台風の際にも効果を発揮したFMばるるんとの連携により運用しています災害時のラジオ放送を、過去の対応を踏まえ報告します。

②「練馬区における臨時災害放送への取組」

東京都練馬区 広聴広報課

宮崎 勝己 課長補佐

東日本大震災では30局の臨時災害FM放送局が開設され、地域住民の貴重な情報源となりました。臨時災害FM放送への練馬区における取組をご紹介します。

③「地域コミュニティに新たな価値を見出す青年会議所とラジオとの連携」 公益社団法人相模原青年会議所

梅津 賢一 理事長

相模原青年会議所は20歳から40歳までの青年経済人が所属し、市民や行政と協働してまちづくりを展開しています。エフエムさがみ（FM HOT 839）とは我々の事業にパートナーとしてご協力を頂いており、その想いや実例をお話します。

④「インフラバラエティの挑戦！「ドボクのラジオ」

株式会社建設技術研究所 国土文化研究所

松田 光弘 次長

土木の専門家や土木好きな方をゲストにお招きして、リスナーの皆さまに土木を身近に感じてもらうキッカケとなるような情報を発信するバラエティ番組です。「それがなぜ社会貢献になるのか？」、その想いをお話します。

【パネルディスカッション・質疑応答】 15:25～15:55

16:00 クロージング

参加申込みはこちらからアクセスしてください

<https://forms.gle/AkNJKWww5TBMDdFd6>



<連絡先>

総務省 関東総合通信局 放送部放送課（ラジオ担当） 電話：03-6238-1705